

## 平成24年人文学部文化コミュニケーション学科

### 教員研究業績一覧 (2012. 1. 1—12. 31)

#### Academic Achievements in 2012:

#### Department of Culture and Communication, Faculty of Arts

凡例：

氏名 ①著書 ②論文・研究ノート ③翻訳 ④書評・随筆等 ⑤学会・研究会等での報告  
⑥その他

沖 裕子 ④「(特集『日本語学』の30年：執筆者100人の歩み) 談話論への一步」(『日本語学』2012年11月臨時増刊号第31巻14号, 明治書院, p. 95) [単著] ⑤1) 招待講演「異文化を理解するために」(2012年2月22日(水), 国際ソロプチミスト塩尻, 於塩尻市中村屋ホテル) [単独] 2) 「談話資料論と研究の可能性—生活談話資料の活用—」(2012年3月19日(月), 大規模方言データの多角的分析研究会, 於国立国語研究所) 3) 「談話論からみた句末の音調と意味」(2012年9月25日(火) 第79回 NINJAL サロン, 於国立国語研究所) [単独] 4) 「大規模自然談話資料の活用可能性—表現法と受話法の観点から受話冒頭に着目して—」(2012年8月25日(土), 大規模方言データの多角的分析公開研究会, 於東北大学) [単独] 5) 「松本方言の終助詞類—語義と談話表現—」(2012年10月20日(土) 長野言語文化研究会, 於あがたの森文化会館) [単独] 6) 「大規模方言談話資料からみた受話法」(2012年12月16日(日), 大規模方言データの多角的分析公開研究会「言語地図と方言談話資料」, 於全国町村会館) [単独] ⑥1) 日本語教育学会学会誌査読協力者 2) 日本語学会評議員 3) 日本語学会大辞典編集委員(2008年2月~2012年6月) 4) 社会言語科学会研究大会発表賞選考委員(2011年4月~) 5) 国立国語研究所基幹研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」共同研究者 6) 国立国語研究所独創・発展型研究プロジェクト「大規模方言データの多角的分析」共同研究者 7) 日本学術振興会科学研究費基盤研究C・課題番号24520498「発想と表現からみる日本語談話の対照談話論的研究」研究代表者 8) サバティカル研修に伴う国立国語研究所外来研究員(2012年4月1日~9月30日)

山田健三 ②「烏丸本徒然草の印刷技法」『人文科学論集〈文化コミュニケーション学科編〉』第46号 pp. 1-20 (2012年3月15日, 信州大学人文学部) [伊東莉沙と共著] ④「[書評] 宮澤俊雅著『倭名類聚抄諸本の研究』」『日本語の研究』第8巻1号 pp. 122-129 (2012年1月1日, 日本語学会) [単独] ⑤「平安期日本語書記システムにおける「平仮名」の位置」(2012年10月21日, 第107回訓点語学会(東京大学山上会館)) [単独]

⑥1) 「言語記述のOSとアプリ」(第一回言語学カフェ(2012年11月20日, 信州大学人文学部人文ホール) 発表) [単独], 2) 日本学術振興会科学研究費助成(挑戦的萌芽研究)「「平仮名」の言語史的意味と変遷の解明を中心とする日本語書記技術史研究」(課題

番号2465209100) を研究代表者として実施, 3) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所「漢字字体規範史研究 第二期」(主査 石塚晴通) 共同研究員(平成22年4月から平成25年3月まで)

坂口和寛 ⑤「類義語分析ストラテジーのトレーニングに見られた正用例文分析行動の特徴」[共同](第38回日本語教育方法研究会, 平成24年3月10日, 国際基督教大学) ⑥1) 「日本語文法を理解するための基本」(平成23年度NPO 中信多文化共生ネットワーク「日本語ボランティア・ステップアップ講座」平成24年1月28日・2月4日, 松本市中央公民館), 2) 「日本語文法の知識はどのように活用できるか」(平成23年度NPO 中信多文化共生ネットワーク「日本語ボランティア・ステップアップ講座」平成24年2月11日, 松本市中央公民館), 3) 「日本語教師が考える『日本経済新聞』の読み方—日本語教育と日本語学習の視点から—」(平成24年度「安曇野市民大学講座(第3回)」平成24年11月13日, 安曇野市穂高会館)

白井純 ②1) 「キリシタン版の原語にみる仮名用字法の意識——活字本と写本の比較から——」, 『人文科学論集』第46号, 信州大学人文学部, 2012. 3, pp. 21-30, [単著] 2) 「『落葉集小玉篇』の部首配属からみたキリシタン版の字体認識」, 石塚晴通編『漢字字体史研究』勉誠出版, 2012. 11, pp. 316-338, [単著] ⑤1) 「『ひですの経』とキリシタンの言葉」, 『ひですの経』影印・翻刻刊行記念講演会講演, 東京, 2012. 1. 22, [単独] 2) Jun Shirai, Masayuki Toyoshima, "Creation of metallic movable types of Japanese KANJI/KANA by the Jesuits", 7th International Conference Missionary Linguistics, Bremen, (白井純・豊島正之「イエズス会による日本の漢字・仮名金属活字の制作」第7回宣教と言語学国際会議, ブレーメン), 2012. 3. 1, [共同] 3) 「新出キリシタン版『ひですの経』からみた『太平記抜書』の刊行について」, 第107回訓点語学会研究発表会, 東京, 2012. 10. 21, [単独] ⑥1) 科学研究費若手研究(B)「変体仮名の語境界表示機能に関する実証的研究」(課題番号: 21720160) 研究代表者 2) 科学研究費若手研究(B)「『ひですの経』の言語的特徴によるイエズス会の言語規範の批判的再検討」(課題番号: 24720205) 研究代表者 3) 科学研究費基盤研究(B)「多言語辞書と金属活字印刷から探るキリシタン文献の文字・語彙同定の過程」(課題番号23320093) 研究分担者

松本和也 ①1) 小栗風葉をひろめる会編『小栗風葉あんない15号』(小栗風葉をひろめる会, 92頁) [共著] 2) 信州大学附属図書館編『「時代小説作家と挿絵画家・石井鶴三」展・資料集』(信州大学附属図書館, 77頁) [共著] ②1) 「岡田利規『三月の5日間』の方法——“ポスト平田オリザ”という視座から」(『人文科学論集〈文化コミュニケーション学科編〉』, 第46号, 信州大学人文学部, pp. 155-169) [単著] 2) 「石井鶴三宛書簡の整理をはじめて——挿絵(画家)から近代文学・出版(研究)を考え直すために」(『信州大学附属図書館研究』, 第1号, 信州大学附属図書館, pp. 21-39) [単著] 3) 「空間から読む太宰治「冬の花火」」(『文芸研究』, 第173集, 日本文芸研究会, pp. 27-38) [単著] 4) 「言葉の力, 物語の力——川上弘美『七夜物語』を読む」(『ゲストハウス』, 第4号,

『ゲストハウス』編集部, pp.15-27) [単著] 5) 「戦場というモチーフをめぐる媒介／触発——田中英光「鍋鶴」と太宰治「鷗」(『太宰治スタディーズ』, 第4号, 「太宰治スタディーズ」の会, pp.210-219) [単著] 6) 「主題としての“喪の仕事”——太宰治「女生徒」論(『立教大学日本文学』, 第108号, 立教大学日本文学会, pp.69-79) [単著] 7) 「“差”をめぐる精読／思考——魯迅／竹内好訳「藤野先生」(『日文教 国語教育』, 第40号, 日本文学協会国語教育部会, pp.29-37) [単著] 8) 「昭和一〇年代後半の歴史小説／私小説をめぐる言説(『日本文学』, 第61巻第9号, 日本文学協会, pp.33-44) [単著] 9) 「“書くこと”をめぐる小説のなかの小説(家)——小川洋子『原稿零枚日記』・『密やかな結晶』(上)(『季刊現代文学』, 第85号, 「現代文学」編集委員会, pp.74-90) [単著] 10) 「川上弘美の出発／現在——「神様」・「草上の昼食」・「神様2011」(『ゲストハウス』, 臨時増刊号iv, 『ゲストハウス』編集部, pp.19-33) [単著] ④1) 「五月——富澤有為男「東洋」と岡本かの子遺稿群(『太宰治スタディーズ』, 第4号, 「太宰治スタディーズ」の会, pp.24-27) [単著] 2) 「中村三春著『花のフラクタル 20世紀日本前衛小説研究』(『昭和文学研究』, 第65集, 昭和文学会, pp.140-142) [単著] ⑤1) 「いま, あしもとから考えるために」(2012年度日本近代文学会11月例会, 2012年11月24日, 共立女子大学) [単独] 2) 「戦時下における「私」の服装——太宰治「服装に就いて」(『太宰治スタディーズ』の会, 2012年12月16日, 学習院大学) [単独] ⑥1) 「太宰治『人間失格』を多角的に考える」(信州大学・免許状更新講習, 2012年7月29日, 信州大学) [単独] 2) 「天災と文学者—小栗風葉「片男波」を中心に」(小栗風葉をひろめる会・秋期文学講演会, 2012年9月9日, 半田市福祉文化会館) [単独]

渡邊匡一 ②1) 「加持祈祷する僧侶たち」(『東アジアの今昔物語集』, 勉誠出版, 138-151頁) [単著] ④1) 松高生の青春日記(2)展(3月3日～5月5日, 旧制高校記念館) [監修] ⑥1) 説話文学会委員(平成19年10月～27年9月) 2) 仏教文学会委員(平成22年4月～26年3月)

株丹洋一 ①平成21年度～23年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)「ESDとISOの統合による教育効果の高い総合的環境教育プログラムの構築」(課題番号21500867) 研究成果報告書, 2012年6月, 日本学術会議 [単独], ⑥平成24年度第2回東御市生涯学習市民大学講座「童話『眠れる森の美女』のルーツをたどって」, 2012年8月25日, 東御市中央公民館 [単独]

吉田正明 ④『サ・ヴァ』第47号(長野日仏協会会報)への寄稿3編(「南麻布セントレホールにてシャンソンとワインの夕べ」「第20回シャンソン研究会」「ギヨーム・オザヌ氏と小布施の盆栽園」, 2012年12月19日発行), ⑤1) 広島大学フランス文学研究会招待講演(演題「バルエポックとシャンソン」, 於広島大学, 2012年8月4日) 2) 第20回シャンソン研究会シンポジウム「20世紀のシャンソンを回顧して」主催(演題「バルエポックとシャンソン」, 於信州大学人文学部, 2012年11月10日), ⑥1) 信州パリ祭招待講演(「カフェ・コンセルのアーティストたち」, 於丸子文化会館セレス小ホール, 2012年7

月16日) 2) 第8回日仏現代作家展共催(於松本市美術館, 2012年8月24日~31日) 3) ガブリエル・ムジカ主催講演会講師「シャンソンとワインの夕べ」(於南麻布セントレホール, 2012年9月7日) 4) 「シャンソン祭 in 松本」ゲストトーク「キャバレーとシャンソン」と歌(於才教学園, 2012年11月23日) 5) 科学研究費補助金(平成22年度~24年度)による研究課題「近代フランスにおける文芸シャンソンの諸相と文学との交錯」(課題番号22520302)を研究代表として実施 6) 異文化交流・外国語サロン(フランス語サロン)の実施

伊藤加奈子 「替~」を用いる中国語の感情表現について」(『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』46号, 信州大学人文学部, pp. 31-47) [単著]

氏岡真士 ①『文簡本を中心とした『水滸伝』の研究』(科研報告書別冊, 全119頁) [単著]  
②1) 「『征四寇』溯源」(『人文科学論集(文化コミュニケーション学科編)』第46号, 49-68頁) [単著] 2) 「“英雄譜” 諸本について」(『名古屋大学中国語学文学論集』第24輯, 1-16頁) [単著]

鎌田隆行 ① Takayuki Kamada et Jacques Neefs (dir.), *Balzac et alii. Génétiques croisées. Histoires d'éditions*, actes du colloque organisé par le Groupe International de Recherches Balzaciennes, 2012.

<http://balzac.cerilac.univ-paris-diderot.fr/balzacetalii.html> [共編著, 電子出版], ②1) 「パラテキストの生成と解釈——バルザック『人間喜劇』の「敷居」を読む」, 松澤和宏編『テキストの解釈学』, 水声社, 2012, 263-293. [単著], 2) «La critique génétique à l'épreuve de la question de l'interprétation» in Kazuhiro Matsuzawa (dir.), *De l'herméneutique philosophique à l'herméneutique du texte*, Université de Nagoya, 2012, 65-70. [単著], ③アントワヌ・コンパニオン『アンチモダン 反近代の精神史』, 名古屋大学出版会, 2012, 462p. [共訳], ④1) «Collectif, *Revue Gallia*, Université d'Osaka, Japon : présentation de l'activité dix-neuviémiste», *Romantisme*, n° 156, 2012, 172-174. [単著], 2) 「私のフランス」, 『サ・ヴァ』長野日仏協会会報第45号, 2012. 6. 20., p. 3. [単著], ⑤「バルザックにおける第二次の架空テキスト——支持体の生成論の試み」, 東北大学文学研究科シンポジウム「無名時代・表現の獲得と揺らぎ」, 2012. 12. 8., 東北大学 [単独], ⑥1) Groupe International de Recherches Balzaciennes (国際バルザック研究会) 執行部メンバー (2008年3月~), 2) 日本フランス語フランス文学会 学会誌編集委員 (2011年4月~), 3) 日本フランス語フランス文学会 中部支部幹事 (2011年4月~), 4) シャンソン研究会 参与 (2011年10月~), 5) 科学研究費補助金(基盤研究C)「バルザック『セザール・ピロトール』の生成批評版の構築」(2012年~2015年, 研究課題番号24520344) 研究代表者

澁谷豊 ①1) 『満鉄と日仏文化交流誌「フランス・ジャポン」』ゆまに書房 [共著] (『対外宣伝誌としての『フランス・ジャポン』』 p. 89-104) 2) 『酒読み』社会評論社 [共著]

(「フランスの美酒」p.138-152) ③1) マルジャン・サトラピ『鶏のプラム煮』小学館集英社プロダクション [単独] 2) イレーヌ・ネミロフスキー『フランス組曲』白水社 [共訳] (「資料」p.475-550) ④「金雪梅著『金子光晴の詩法の変遷—その契機と軌跡』(花書院, 二〇〇一年)『比較文学』第54巻, p.164-168[単著] ⑤「野生児と海—日本におけるランボー受容」(日仏文化交流史研究会, 11月17日, 学習院大学) [単独]

野津寛 ①『ラ・トゥール：フランス語初級文法と会話』, 駿河台出版社, 2012年11月 [共著] ⑤「フランス留学体験談, 及び Euripides, Ion1437-1511の韻律構造について」, 東京大学文学部西洋古典学科第6回クラシカルセミナー, 2012年7月5日, 東京大学向ヶ岡ファカルティハウス [単独] ⑥1) 日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として講演会を主催, 2012年7月14日, アテネフランセ, 2) 日本演出者協会主催「国際演劇交流セミナー2012ドイツ・トルコ特集」(東京ドイツ文化センター, 8月21日~26日)に、使用テキスト(アリストパネース『アカルナイの人々』)の翻訳者・解説者として参加 [共同]

磯部美穂 ①『「入門文法」よく説明・理解できていないこと—テキスト理解を助ける中・上級文法の試み』日本独文学会研究叢書第83号 三秀舎 井出万秀・磯部美穂 編, [共編], ②「読者はいかにして「新しい語」を理解するか—「テキスト語」としての複合的名詞化について」(日本独文学会研究叢書第83号 67-81頁, 92-93頁), [単著], ⑤1)「名詞的文体に関する通時的研究—マイスター・エックハルト説教集にみる動詞派生名詞について」(2012年11月10日 日本独文学会北陸支部研究発表会 於 金沢大学サテライト・プラザ), [単独], 2)「語構成に関する認知的限界の予測」(2012年12月8日『田中基金』ドイツ語研究会 於 九州大学言語文化研究院), [単独], ⑥出張ドイツ語講座「話してみようドイツ語 de こんにちは!」(2012年5月30日 於 松本秀峰中等教育学校外国語部 磯部美穂・後藤コリンナヴェレナ) [共同]

清水明 ②「『剃刀の刃』の受容の問題について」(『小説研究』第13号, 『小説研究』編集グループ, 46-59)2012年3月 [単] (研究ノート)「モームを聴く」(*Cap Ferrat* 第9号, 日本モーム協会, 72-77)2012年3月 [単]

杉野健太郎 ①(学術研究書) 監修伊藤詔子/編集代表新田玲子『カウンターナラティブから語るアメリカ文学』, 音羽書房鶴見書店, 2012年10月10日刊行 (ISBN-10:4755302692), 「ギャツビー, アメリカ人になる—『グレート・ギャツビー』はなぜグレートか」を執筆。[共著] ⑤1) 学会シンポジウム: 日本スコット・フィッツジェラルド協会シンポジウム「フィッツジェラルドとハリウッド」, 2012年4月28日(土), 成蹊大学。宮脇俊文(司会), 金原瑞人, 長澤唯史とともに。個人タイトル「『グレート・ギャツビー』のハリウッド的解釈—『華麗なるギャツビー』(1974)を中心に」[共同]。2) 学会発表: 「アダプテーションをめぐるポリテクス—『華麗なるギャツビー』の詩学」, 日本映画学会第一回例会, 2012年6月30日, 国士舘大学世田谷キャンパス [単独]。⑥1) 記事: 「学会誌『映画研究』第5号の編集を終えて」, 「日本映画学会会報」「日本映画学会会報」第26

号 [http://jcs.h.kyoto-u.ac.jp/nl1102.html] [単著]。 2) 記事:「第3回(2010年度)日本映画学会賞の選考経過について」,「日本映画学会会報」「日本映画学会会報」第26号 [http://jcs.h.kyoto-u.ac.jp/nl1102.html] [単著]。 3) 学会開催:日本アメリカ文学会中部支部2月例会・役員会,2012年2月18日。 4) 発表記録:杉野健太郎「『グレート・ギャツビー』のハリウッド的解釈—『華麗なるギャツビー』(1974)を中心に」,『日本スコット・フィッツジェラルド協会 ニュースレター』27号(2012年10月),8-9[単著]。 5) 書評:麻生享志著『ポストモダンとアメリカ文化—文化の翻訳に向けて』,『英文学研究』(日本英文学会)和文号第八十九卷(2012年12月1日発行),145-49[単著]。 6) 学会司会:中・四国アメリカ文学会第41回,平成24年6月9日(土),広島大学文学部,発表者山中祐子。 7) 学会司会:日本映画学会第8回大会,平成24年12月1日(土),大阪大学言語文化研究科,発表者大石和久・小川公代。 8) 学会役員:日本映画学会常任理事(1~3月編集委員長,4~12月事務局長),日本英文学会中部支部編集委員,日本アメリカ文学会中部支部編集委員,日本スコット・フィッツジェラルド協会幹事,サウンディングス英語英米文学会学会誌『サウンディングス』第38号編集委員, 9) 研究者受け入れ:平成24年度,新田玲子氏(広島大学文学研究科教授)

飯岡詩朗 ④「書評: Hiroshi Kitamura, *Screening Enlightenment: Hollywood and the Cultural Reconstruction of Defeated Japan*」『アメリカ研究』46号(2012年3月):187-192頁 [単独] ⑥1) 特別授業「映画にとって編集とは何か」(6月27日・信濃むつみ高等学校) 2) トークショー(講演)「懐かしの名画座 歌って、踊って、笑って日本ミュージカル・シネマ大集合!」全2回(10月24,25日・茅野市民館) [単独] 3) 講演「映像をつなぐこと/映像がつなぐこと」安曇野市市民大学講座信州大学編(11月30日・穂高会館) [単独] 4) 日本映像学会機関誌『映像学』編集委員(8月~)

伊藤盡 ②1)「北欧語から英語への借入語としての Troll」『信州大学人文学部人文科学論集.文化コミュニケーション学科編』46(2012):69-83. [単著] 2) 'Búri as deus terra editus and Þórr as Iarðar burr: The Earth-born Gods in the Scandinavian Mythology'. *The 15th International Saga Conference Sagas and the Use of the Past, 5th-11th August 2012, Aarhus University, Preprint of Abstracts*. Eds. A. Mathias Valentin Nordvig and Lisbeth H. Torfing (Aarhus: Department of Aesthetics and Communication and Department of Culture and Society, Faculty of Arts, Aarhus University, 2012): 167. [単著]

④1) 佐々智樹, 菱木晃子, 伊藤盡「北欧に魅せられて」『三人閑談 Causeries des trois』『三田評論』1153(2012年2月号):70-82. [共著] 2) 伊藤盡, 新城カズマ「生きている神話をどう読むか」『ユリイカ:詩と批評』(2012年12月臨時増刊号 総特集永野護):41-53. [共著] 3)「イングランドから北海沿岸文化を訪ねよう:ヴァイキングの歩みとともに」(第1回)「アングロ・スカンディナヴィア文化の痕跡:カンブリアの教区教会(1)」『英語教育』(2012年10月号):1-4. [単著] 4)「イングランドから北海沿岸文化を訪ねよう:ヴァイキングの歩みとともに」(第2回)「アングロ・スカンディナヴィア文化の痕跡:カンブリアの教区教会(2)」『英語教育』(2012年11月号):1-4. [単著]

- 5) 「イングランドから北海沿岸文化を訪ねよう：ヴァイキングの歩みとともに」(第3回)「コリングウッドのアイスランド訪問」『英語教育』(2012年12月号): 1-4. [単著]
- 6) 「イングランドから北海沿岸文化を訪ねよう：ヴァイキングの歩みとともに」(第4回)「伝説と神話の生きるノルウェー：スノッリの『ノルウェー王のサガ』の伝承と受容」『英語教育』(2013年1月号): 1-4. [単著] ⑤1) «Búri as deus terra editus and Þórr as Iarðar burr: The Earth-born Gods in the Scandinavian Mythology' The 15th International Saga Conference 5-11 August 2012. 2012年8月10日. Aarhus University (Denmark) [単独] 2) 「北欧神話・伝説の視点から読む『指輪物語』」日本イギリス児童文学会中部支部2012年春の例会, 「シンポジウム:『指輪物語』を語る」(パネリスト: 辺見葉子・伊藤盡・渡辺美樹・高橋勇). 2012年6月30日. 名古屋大学東山キャンパス [単独] ⑥1) 映画『ホビット: 思いがけない冒険』(制作: ワーナー・ブラザーズ, 配給: 松竹) 翻訳監修(辺見葉子, 伊藤盡, 高橋勇)(2012年12月14日全国公開) [共同] 2) 映画『ホビット: 思いがけない冒険』パンフレット「プロダクションノート」翻訳監修(辺見葉子, 伊藤盡, 高橋勇)(松竹株式会社, 2012年12月) [共同] 3) 日本中世英語英文学会大会準備委員 4) International Saga Conference 日本代表

- 花崎美紀 ①1) 『自習用教材作成・高大連携・相同性研究に生かす、慣用句を鍵に行う前置詞棲み分け研究』[単著] ②1) 「相同性という観点から見る、日米の出産と育児の実際」(『桐の木』第22号、79-84) [単著] 2) 「Forの意味論再考」『人文紀要文科学論集(文化コミュニケーション学科編)』46 [単著] ⑤1) 「英語らしい英語とは」(82銀行行員講習会、2月7日、82銀行) [単独] 2) 「Toの意味論」(日本英文学会中部支部大会、10月27日、南山大学) [共同] ⑥1) 「新春随想: 英語らしい英語とは」平成24年1月1日 市民タイムズ 2) 『2013年全国大学入試問題正解(国公立大編)』旺文社 [共著] 3) 『2013年全国大学入試問題正解(私立大編)』旺文社 [共著] 4) 日本英文学会中部支部理事 5) 日本英語学会大会委員

- 船津和幸 ②1) 「『演戯の鏡』翻訳ノート(5)」(『信州大学人文科学研究論集・文化コミュニケーション学科篇』第46号, pp.109-126) [単著] 2) Lokadharmi and Natyadharmi in Martial Arts with Focus on Karate Movements, (Na Jedwabnym Szlaku Gestu (On the Silk Route of Gesture), Akademia Ignatianum, Krakow, Poland, 2012, pp.227-240) [単独], ④ 「『マハーバーラタ』とサイコロ賭博と宮城聰の<危険な関係>」(『劇場文化』ふじのくに=せかい演劇祭2012, マハーバーラタ~ナラ王の冒険~, pp. 6-8) [単著], ⑥1) 演劇公演“101 Lullabies” (Kerala Sangeetnatak Academi Natyagriha, Thrissur, Kerala, India, 2012. 9. 25) (科研基盤研究(C)による)(制作・脚本・翻訳) [共同] 2) 「これが噂のカラリパヤットだ!」(「インド学ゼミ」銀嶺祭企画, 2012. 11. 3) (人文学部国際交流事業特別要求による) [共同]

- 金井直 ①上村清雄編『フレスコ画の身体学』(「システイーナ礼拝堂の五〇〇年I, II」を分担執筆, ありな書房) [共著] ②1) 「石膏模像の機能と石膏デッサンの様式」(『信州

大学人文科学研究論集・文化コミュニケーション学科編』第46号, 信州大学人文学部, pp.127-139) [单著] 2) 「信州大学所蔵石井鶴三彫刻作品について」(『信州大学附属図書館研究』第1号, 信州大学附属図書館, pp.13-19) [单著] ④ 1) 「受苦としての絵画」(『MITSUKO MIWA』, 1223現代絵画) [单著] 2) 「アルテ・ポーヴェラ2011消息」(『REPRE』15, 表象文化論学会, <http://repre.org/repre/vol15/note/01/>) [单著] 3) 「空間の巣, あるいは被/皮膜の場所」(『Domain of Art 8: 東明展 空間の巣』プラザノース) [单著] 4) 「とらんしつとを通り抜ける」(「とらんしつと: 世界通り抜け」展HP, Operation Table.<http://operation-table.com/transit.html#ka>) [单著] ⑤ 1) 研究発表「プラクシスとしての現代芸術——美学と政治のキアスムをめぐる」コメンテーター(表象文化論学会第7回大会, 東京大学, 7月7日) 2) 講演会「スタジオ・アズーロ 地中海への/からのまなざし」コーディネーター(信州大学人文学部, 松本市美術館, 9月28日) 3) トーク「美術という眺望」コメンテーター(「館蔵作品セレクション展」関連企画, 松本市美術館, 11月24日)

北村明子 ⑥舞台作品・振付 1. 「To Belong ワーク・イン・プロGRESS」(演出・振付・構成・出演) 森下スタジオ, 2012年3月15~18日 Office A/LB 主催 公益財団法人セゾン文化財団, 芸術文化振興基金, アサヒビール芸術文化財団助成事業, 2. 「To Belong」(演出・振付・構成・出演) Salihara 劇場(ジャカルタ), 2012年4月27~28日 サリハラ劇場・Office A/LB 主催 国際交流基金, 公益財団法人セゾン文化財団助成事業, 3. 「To Belong-dialogue-」(演出・振付・構成・出演) シアタートラム, 2012年9月21~23日, Office A/LB 主催 公益財団法人せたがや文化財団共催, 公益財団法人セゾン文化財団, アーツカウンシル東京準備機構(公益財団法人東京都歴史文化財団)助成事業 協賛 資生堂/Art Theater dB 神戸 2012年9月25日 Office A/LB 主催 NPO 法人DANCE BOX 共催 芸術文化振興基金, 公益財団法人セゾン文化財団, 神戸市芸術文化活動助成事業, インタビュー 1. 「インドネシア×日本!! 国際共同制作公演『To Belong -dialogue-』の稽古場に潜入!!」演劇ライフ 2012年8月24日, 2. 「インドネシアの精神性表現」オンステージ 読売新聞 2012年9月5日, 3. 「決して安住しないダンスの求道者 北村明子インタビュー」Cinra.net 2012年9月10日, 4. 「Color Stone Fantasy いつもとちがう“私”に出会う Vol. 4」Fountains The Magazine of JAL Hotels ファウンテンズ Vol. 66, 2012年12月17日, ワークショップ, レクチャー 1. 国内ダンス留学@神戸 Art Theater dance Box 神戸2012年8月2~5, 12月25~26日, 2. 名古屋「今津雅晴・北村明子ダンスワークショップ&ショーイング」愛知県芸術劇場 大リハーサル室 2012年10月18~20日